

令和4年度 多摩市立豊ヶ丘小学校 学校評価書

学校教育目標	
人権尊重の精神を基盤として、調和の取れた人間性豊かな児童の育成 ◎ 実行する子(知) ○ 思いやりのある子(徳) ○ 健康な子(体)	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
「よき社会人を育てる学校」 社会人としての基盤を身に付けさせるために、教職員が一体となって、地域・保護者及び関係諸機関と緊密に連携した「共に教育」(共育)に取り組み、将来社会を担う、「よき社会人」を育成する学校	
目指す子供像	目指す教師像
未来に向けて自らの知恵を活用し、周りの人と協働して改革・革新ができ、自分の利益だけではなく、社会に対して貢献できる児童	児童一人一人としっかり向き合い、愛情を注ぐとともに、児童の輝くところに気付き、自己肯定感を高めさせることができる教師

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	自己評価		学校関係者評価	
	評価項目 (目標とする成果・指標 %)	評価	現状の分析と改善策	評価
重点目標	・ユニバーサルデザインの視点に基づいた授業の実施、個別最適な学びと協働的な学びの保証による、各教科等における基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ・プログラミング的思考の育成 ・カリキュラムマネジメント(身に付けさせたい力を横断的・総合的に学ばせる)による、ESDで重視する能力・態度の育成			
	・東京ベーシックドリルにおいて、全児童の8割が達成率90%になるようにする。	2	東京ベーシックドリルでの90%以上の達成率は、4割5分であった。各教科の学習における主体的・対話的で深い学びの取組を一層高める必要がある。	A
	・一連の活動をより効率的に実現するための思考力を育成し、学力に関する保護者アンケートの肯定的評価を90%以上にする。	4	保護者アンケートによる「楽しく分かる授業」「学力の向上」での肯定的評価は、それぞれ94.6%、93.7%であった。	B
評価のまとめ	・カリキュラムマネジメントによって、ESDで重視する能力・態度を育成し、特色ある教育活動及び学力に関する保護者アンケートの肯定的評価を90%以上にする。	4	保護者アンケートによる「ESDの推進」「プログラミング的思考力の育成」での肯定的評価は、それぞれ95.5%、92.7%であった。	B
	本年度の全国学力学習状況調査で、第6学年児童は全国平均、東京都平均を上回ることができた。また、英検サポートプログラムでの結果も昨年度の平均を上回りよい評価を得ることができた。自らの学習を調整し、主体的対話的で深い学びを体現できる児童の育成のために、引き続き教職員の授業力の向上、プログラミング教育の実施、ユニバーサルデザインの推進を行う。			
	評価のまとめ			

【評価について】

自己評価			学校関係者評価	
評価	達成状況	成果指標	評価	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	自己評価		学校関係者評価	
	評価項目 (目標とする成果・指標 %)	評価	現状の分析と改善策	評価
重点目標	・議論などの対話的な授業を推進する。自分の考えをもちながらも他の人の考えを大切にすることによる、思いやりの心や規範意識等の道徳的実践意欲の向上 ・様々な体験的活動や集団活動をとおしてより人間関係づくりができる児童の育成	3	6月のふれあい月間でのいじめ報告件数は13件であり、11月の触れあい月間での解消は11件。解消率は85%であった。	A
	・「特別の教科 道徳」において、物事を多面的に考えたり、議論したりして、自分の考えと友達の考えを比べたり取り入れたりして自己の生き方に対する考えを深めさせ、道徳的実践に関する保護者アンケートの肯定的評価を90%以上とする。	4	保護者アンケートによる「思いやりの心や規範意識の向上」での肯定的評価は、91.8%であった。	B
	・様々な集団活動をとおして、いつでもどこでも誰とでも仲良くできる資質を育成し、道徳的実践に関する保護者アンケートの肯定的評価を90%以上とする。	4	保護者アンケートによる「学校生活を楽しんでいる」「仲良く生活している」での肯定的評価は、それぞれ92.8%、96.4%であった。	B
評価のまとめ		いじめの未解決の案件は、対象の児童が確定できなかった2件であった。また、11月のふれあい月間では新たないじめ案件も報告されている。いじめは、必ず起こることを前提としていじめの解消に全力を尽くすことはもちろんのこと、児童の変化を見逃さず全教職員でいじめの未然防止、早期発見に引き続き取り組んでいく。		

(3) 健やかな体の育成

重点目標	自己評価		学校関係者評価	
	評価項目 (目標とする成果・指標 %)	評価	現状の分析と改善策	評価
重点目標	・生涯にわたり心身ともに健康な児童の育成と豊かなスポーツライフの実現を目指す、運動に親しむ児童の育成 ・自分の身は自分で守る危機回避意識と交通安全に関する取組や避難訓練等をとおした児童自身による危機回避能力の向上 ・食に対する意識の涵養			
	・豊ヶ丘小レガシーとして、一校一取組やトヨリンピックにより、体力・運動能力調査において国・都の平均以上にする。	1	学年別男女別での体力・運動能力調査で、国・都の平均を上回ったのは、34%程度であった。特に瞬発力系、柔軟性での低さが目立った。トヨリンピックや群れ遊び等で運動に親しむ機会を提供していく。	A
	・避難訓練や安全指導による児童の危機回避能力育成をとおして、安全に関する保護者アンケートを90%以上とする。	4	保護者アンケートによる「安全に対する意識の向上」「情報モラルを身に付ける指導」「SNS等のルールの適正化」での肯定的評価は、それぞれ98.2%、94.6%、98.2%であった。	B
評価のまとめ	・給食指導、栽培・収穫などの体験活動をとおして、食に対する意識を高め、健康に関する保護者アンケートを90%以上とする。	4	保護者アンケートによる「学校教育目標の具現化」、「体力向上」の肯定的評価は、それぞれ94.6%、95.5%であった。	B
	多摩市の残菜率調査で、本校の残菜率はかなり良い調査結果を得ている。一方、体育の授業の改善や一校一取組、トヨリンピック等で運動に親しむ児童の育成を目指しているが、結果として体力の向上は顕在化していない。引き続き運動に親しむ場や機会を提供しつつ、日常的に運動に親しむ児童の育成を続けていく。			
	評価のまとめ			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	・コミュニティ・スクールの強みを生かし、保護者及び地域の教育力を積極的に活用した「共に教育」の推進 ・学校だより、学年や学級だより、学校ホームページ等の情報発信やICTの活用による授業の開発による学校理解度の向上			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営連絡協議会委員の意見
・12月実施予定の保護者アンケートによる「共に教育」に関する評価において90%以上とする。	4	保護者アンケートの「保護者、PTA」「地域等」と協働して教育活動を行っている」での肯定的評価は、それぞれ97.2%、96.4%であった。	B	学校教育の進め方としては適切に進められていると思う。豊ヶ丘小学校が目指す、社会に開かれた教育課程は、実現できてきているのではないかと。来年度以降、さらなる「共育」の実施を期待する。 保護者アンケートの回収率の向上を望む。
・12月実施予定の保護者アンケートによる「情報発信」に関する評価において、90%以上とする。	4	保護者アンケートの「教育方針、教育活動」の発信、「学力調査、体力調査」の発信での肯定的評価は、それぞれ92%、92.7%であった。	B	
評価のまとめ	共に教育、情報発信においては、両項目とも90%以上の肯定的評価をいただいた。しかし、否定的な評価についても目を向け、まだまだ改善の余地があることを示していただいたと捉え、保護者や地域の方に授業や行事に一層の参加や参画もしていただける取り組みを図っていく。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

《方向性》 「2050年の大人づくり」に向け、「依存から自律へ」「知識から知恵へ」「IQ から EQ へ」を念頭に未来に向けて自らの知恵を活用し、周りの人と協働して改革・革新ができ、自分の利益だけではなく、社会に対して貢献できる人材の育成をめざす。そのための取り組みとして、授業のユニバーサルデザイン化（視覚化、焦点化、共有化から）、各教員の得意分野を集結した協働的な授業改善、校内研究による効果的な指導方法の研修、合同授業、交換授業による指導方法の共有化・均質化、児童自らが学習過程を計画し、実行する主体的・対話的で深い学びの実施、学校いじめ対策委員会の毎月の実施、特別支援教育校内委員会の毎月の実施、ふれあい月間、セーフティ教室の実施、月1回、「いじめ防止の日」を設定、体育的行事や一校一取組、トヨリンピック等の体育的活動の充実及び定期的な取り組み、ICT機器の活用、地域人材の活用を行い、学校教育目標（実行する子 思いやりのある子 健康な子）の具現化に取り組む。
《課題》 2050年の大人づくりに向け、自らの知恵を活用し、周りの人と協働して改革・革新ができ、自分の利益だけではなく、社会に対して貢献できる人材の育成をめざす。そのために、小学校卒業時のめざすべき児童像を保護者や地域の方と共に考え、本校の教育方針や授業、行事のあり方や方向性等を適宜、点検、改善を行うことが必要である。また、点検、改善を行うために保護者や地域の方の行事や授業への参観だけでなく、参加や参画の仕組みを構築していくことが重要となる。

以上のとおり報告いたします。

令和 5年 2月 20日
多摩市立豊ヶ丘小 校長 ト 部 敦 彦



令和4年度 学校評価書

多摩市立豊ヶ丘小学校